

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2025 年度 第 3 回 キャリア委員会
議事次第

日 時：2025 年 11 月 21 日（金）持ち回り開催

回答期限：2025 年 11 月 28 日（金）正午

委 員 校：関西学院大学（委員長校）

関西福祉大学（副委員長校）、甲南女子大学（副委員長校）、神戸国際大学（副委員長校）
芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院短期大学、甲南大学
神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭大学
神戸親和大学、神戸常盤大学、園田学園大学、宝塚医療大学、兵庫大学
兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

計 23 大学

I. 協議事項

1. 2025 年度キャリア委員会自己評価（案）について（資料 1）
標記に関し、森理事長から各事業委員会に、資料 1-1 のとおり依頼があった。資料 1-2 の「2025 年度キャリア委員会事業 自己評価（案）」について審議。

II. 懇談事項

1. 「大学キャリア教職員と企業人事担当者等との情報交換会・懇親会(案)」について（資料 2）

標記に関し、第 6 回理事会において、例年通りの「賛助会員と加盟校の懇親会」は開催せず、今後は「企業トップと学長」「企業の人事担当と大学のキャリア担当」の意見交換の場は分けること、また「大学キャリア教職員と企業人事担当者等との情報交換会・懇親会」を 2026 年 2 月 16 日（月）に実施することの 2 点が承認された。

当会は例年の淡路市商工会、丹波地域人材確保協議会との情報交換会、賛助会員企業とキャリア教職員との懇親会に加え、新たにみなと銀行採用応援パック企業との情報交換会を集約して実施。複数回の取組を 1 回に集約することで、教職員の負担軽減と交流の実効性の向上をねらった。詳細は資料 2 の「大学キャリア教職員と企業人事担当者等との情報交換会・懇親会」実施要項（案）のとおり。主に資料 2（P2）の赤枠「開催形式」についてご意見を伺いたい。

具体的には、以下の開催形式を検討中であるが、情報交換、懇親に関するアイデアや改善点等を伺いたい。

- ① 想定規模：120 名程度（30 校/1 校 1～2 名、80 社程度の参加の想定）
- ② 実施場所：兵庫国際交流会館 3 階 多目的ホール
- ③ 前半の 95 分は指定席とし、
 - ・ 12～16 テーブルにグループ分け（1 グループ 8～10 人、参加者数によって調整）
 - ・ 15 分に 1 回席替え×6 回実施
 - ・ 事前に大学から、情報交換希望企業を第 5 希望まで確認
- ④ 後半の 30 分は自由席とし、
 - ・ 15 分に 1 回席替え×2 回実施
- ⑤ 閉会后 30 分間開場、名刺交換等自由交流

Ⅲ. 報告事項

1. 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて (資料 3)
標記に関し、2025 年 8 月 30 日(土)、31 日(日)に神戸学院大学にて開催し、461 名が参加。各プログラムの詳細は、資料 3 の「第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム報告書」のとおり。
2. 「産・学・官でつなぐ ライフロングキャリア共創セッション」について (資料 4)
全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの午前中のプログラムとして開催し、52 名が参加した。プログラムの詳細は、資料 3 の「ライフロングキャリア共創セッション報告書」のとおり。
3. 「ひょうご留学生インターンシップ」について (資料 5)
ひょうご留学生インターンシップを実施し、13 大学 83 名の留学生がプログラムを修了した。プログラムの参加者属性等は、資料 5 「ひょうご留学生インターンシップ最終報告」のとおり。
4. 「尼崎市」大学生等向けオープンカンパニー(インターンシップ等推進事業) (資料 6)
「1day 職場体験@あまがさき 2025」について
1day 職場体験@あまがさき 2025 を実施し、9 大学 22 名が参加した。プログラムの詳細は資料 5 の「1day 職場体験@あまがさき 2025」報告書のとおり。

Ⅳ. 連絡・調整事項

2025 年度キャリア委員会の開催予定と主な議題について

- ・ 第 4 回 (2026 年 2 月 16 日実施) : 2026 年度事業計画・予算 (案) について
- ・ 第 5 回 (2026 年 3 月) : 2025 年度事業報告・決算 (案) について

以上

<資料一覧>

- 【審議事項 1】 資料 1-1 : 事業委員会における 2025 年度事業の実施内容 (結果) と
自己評価の作成について (依頼)
- 【審議事項 1】 資料 1-2 : 2025 年度 キャリア委員会事業 自己評価 (案)
- 【懇談事項 1】 資料 2 : 「大学キャリア教職員と企業人事担当者等との情報交換会・懇親会」
実施要項 (案)
- 【報告事項 1】 資料 3 : 「第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」 報告書
資料 4 : 「産・学・官でつなぐ ライフロングキャリア共創セッション」 報告書
資料 5 : 「ひょうご留学生インターンシップ最終」 報告書
資料 6 : 「1day 職場体験@あまがさき 2025」 報告書

2025 年 11 月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 森 康俊

事業委員会における 2025 年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成について（依頼）

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当コンソーシアムでは、各事業委員会にて実施いただきました事業について「自己評価」を作成していただき、その内容をもとに企画運営委員会及び理事会にて事業の継続・改善等を検討することとしております。

つきましては、当コンソーシアムの活動の更なる充実のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

敬具

記

1. 各事業委員会への依頼内容と提出期限について

依頼内容：2025 年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成、提出

2025 年度事業計画（添付 1）に基づき、プログラムごとに実施内容（結果）と自己評価を作成してください。12 月以降に実施予定のプログラムについては、進捗状況を具体的に記入ください。

提出期限：12 月 4 日（木）正午

2. 今後のスケジュール

- （1）ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体（兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会）の意見聴取：12 月
- （2）第 9 回企画運営委員会による事業改善提案の検討：12 月
- （3）第 7 回理事会による事業改善提案の審議：1 月
- （4）各事業委員会へのフィードバックと 2026 年度事業計画・予算提出依頼：1 月
- （5）第 11 回企画運営委員会にて 2026 年度事業計画・予算検討：2 月
- （6）第 8 回理事会による 2026 年度事業計画・予算審議：3 月
- （7）ひょうご産官学連携協議会にて、2026 年度事業計画・予算審議：3 月

（添付書類）

- ・添付 1 2025 年度 事業計画（事業委員会別）

以上

【問い合わせ先】大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当：田頭・松岡）

電話：078-271-0233 メール：kanri@consortium-hyogo.jp

【2025年度 キャリア委員会 事業計画】

資料 1-2

- 目的

兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟する大学間連携組織の特徴を生かして、グローバル、ローカルに活躍する人材育成を目指した事業を、県内企業、行政、加盟校キャリアセンターと共に展開する。
- 委員校

委員長校：関西学院大学 副委員長校：関西福祉大学、甲南女子大学、神戸国際大学

（全：23校） 委 員 校：芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、園田学園大学、宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

○中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標/予算等

課題及び期待される効果	取組	達成目標	活動指標	予算（千円）
<p>課題①地域の活性化のための県内企業への就職率の向上</p> <p>〔期待される効果〕</p> <p>1. 地域創生の推進にあたり県外への人口流出を抑制するために、県内大学卒業者の地元への就職について、大学側と企業側が相互理解を深め共に連携する機会を提供することで、若者のキャリア形成の支援を充実させ、大学生の県内企業への理解不足を解消し、地域の活性化を実現することが期待される。</p> <p>2. 地域の活性化のためのUJIターン就職の促進と地域産業ニーズに対応した人材育成が期待できる。</p>	1. 大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクト実施			
	1-1「兵庫県」 大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト	①本プログラムへの参加を通じて、兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上	各年参加者数 450名以上 〔内訳〕 学生数400名以上 教職員数50名以上	3,938 (受託事業収入)
	1-2 県内企業への就職率向上促進プログラム	②参加者数：2500名以上/5年		0
	1-3「尼崎市」 大学生等向けオープンカンパニー（インターンシップ等推進事業）	〔内訳〕学生数2250名以上/5年、教職員数250名/5年		1,339 (受託事業収入)
	2 県内企業・団体等の魅力を情報発信	情報公開企業・団体数：120社以上	企業情報の追加掲載 2種類以上	0
<p>課題④外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進</p> <p>〔期待される効果〕</p> <p>3. 各加盟校単独では実施が困難だと思われる「留学生に特化したインターンシップ」や「合同企業説明会」実施に向けて、持続可能な仕組みづくりが期待される。</p> <p>4. 外国人留学生を企業が受け入れるための体制支援を強化し、外国人留学生採用のためのワンストップ相談窓口をコンソが担うことで、大学、行政、企業が連携した新たなネットワークを構築が期待できる。</p>	2. 留学生向け就職支援・キャリア教育プログラムの実施			
	1-1(1)ひょうご留学生インターンシップ	①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上	各年参加留学生数 500名以上	1,600
	1-1(2)「尼崎市」 留学生向けインターンシップ（インターンシップ等推進事業）	②参加留学生数：2500名以上/5年		1,411 (受託事業収入)
	1-2「兵庫県」 外国人留学生採用ワンストップ支援事業	①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上 ②参加留学生数：250名以上/5年	各年参加留学生数 50名以上	6,291 (受託事業収入)

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（①取組1-1）】「兵庫県」大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト

計画（4月記載）			自己評価（12月記載）			報告（3月記載）		
【兵庫県総務部教育課受託事業 「大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト」】 【趣旨】大学コンソーシアムひょうご神戸のネットワークを活用し、大学キャリアセン ター職員やキャリア教育に携わる教員の県内企業への理解を促進する。 (1)大学キャリアセンター職員、大学教員の県内企業への理解促進 「県内企業経営者等によるキャリアセンター向けの企業説明及び意見交換会」 大学キャリアセンター職員等を対象に県内企業合同の企業説明会を開催するとともに、学 生と企業の有効なマッチング法等について意見交換する。 【実施回数】2回以上（年） 【目標参加者数】〔大学〕約40校（30校×1回、10校×1回） 〔企業〕約80企業（65社×1回、15社×1回） 【実施予定】キャリア×企業 ①2025年8月30日 ライフロングキャリア（仮称）に関するセミナー及び情報交換会 ②2025年9月20日 留学生採用に関する意見交換会 ③2025年10月8日 企業と大学との意見交換会（協業：神戸商工会議所） ④2025年12月頃 経営者・人事採用担当者との意見交換会 (2)学生に対する情報発信力強化 「県内企業経営者・企業若手社員等による取組紹介と意見交換会」 県内企業経営者等が講師となり、先進的・実践的な自社の取組や他社に誇れる社風など、 リアルな情報を直接講話し、中小企業への理解を深めるとともに、実際の体験に基づいた 仕事のやりがいなどについて本音の意見交換を行うことで、学生の地元意識の高揚や県内 企業への就職意欲の向上に繋げる。 【実施回数】2回以上（年） 【目標参加者数】〔学生〕約120人 〔企業〕約20企業 【実施予定】 ①2025年12月：経営者・人事の面接大作戦 ②2025年12月：合同模擬グループディスカッション ③2025年12月：兵庫県内企業とのネットワーキング ④2026年 3月：ひょうご就職サミット ※その他、加盟校、地元企業からの間で課題等を共有し、解決に向けたプログラムを実施 予定。 例：公務員試験対策用の合同模擬グループディスカッション、面接大作戦の試験的実施			【兵庫県総務部教育課受託事業 「大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト」】 (1)大学キャリアセンター職員、大学教員の県内企業への理解促進 「県内企業経営者等によるキャリアセンター向けの企業説明及び意見交換会」 【活動内容】 ①2025年8月30日 産・官・学でつなぐライフロングキャリア共創セッション及び情報交換 会 参加企業数：16社26名 参加大学数：16校22名 参加行政数：2団体4名 ②2025年9月20日 留学生採用に関する意見交換会 参加企業数：19社29名 参加大学数：8校9名 参加行政数：1行政1団体4名 ③2025年10月8日 企業とキャリアセンターとの就職相談交換会in KOBE（協業：神戸商工 会議所） 参加企業数：115社458名 参加大学・短大・専門学校数：19校26名（加盟校14校21名・非加盟校5校5名） ④2026年2月16日 大学キャリアと企業の情報交換・懇親会（予定） (2)学生に対する情報発信力強化 「県内企業経営者・企業若手社員等による取組紹介と意見交換会」 【活動（予定）内容】 ①2025年11月29日 グループディスカッション 参加企業数：●社●名 参加大学数：●校●名 参加行政数：●行政●名 ②2025年11月29日 グループ面接体験セミナーを実施 参加企業数：●社●名 参加大学数：●校●名 参加行政数：●行政●名 ③2025年11月29日 兵庫県内企業とのネットワーキング 参加企業数：●社●名 参加大学数：●校●名 参加行政数：●行政●名 ※①、②、③は、一般企業と公務員コースの2コースで実施する。 ④2025年12月20日 選考を通過するES・面接の本質とは?!【面接実践編】 ⑤2026年 3月：ひょうご就職サミット 【自己評価】 「ライフロングキャリア共創セッション」では、大学や企業が対応に苦慮している“グ レーゾーン学生”について、その実態や支援方法を学ぶ機会が設けられた。これにより、 産・学・官がこの課題を共通認識し、連携の必要性和可能性に対する機運が醸成された。 現状に即した新たなテーマを取り上げることができた点も意義深く、キャリア委員会とし ては初の試みであったが、参加者の関心の高さからも、テーマ設定の妥当性がうかがえ た。 学生向けの取組に関しては、キャリア委員の声を元に、例年実施している模擬グループ ディスカッション・面接において、一般企業に加え、公務員（地方行政職）コースを新 設。当コースに関しては、学生の申し込みも目標に到達しており、コンソの強みを活か し、より多くの学生に効果を及ぼす取り組みであると考えている。引き続き、必要とされ る取り組みを見極め臨機応変に継続して実施していく必要があると考える。					
達成目標に対する実績 【達成目標】①本プログラムへの参加を通じて、兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生 の割合：参加学生の80%以上 ②参加者数：2500名以上/5年 【内訳】学生数2250名以上/5年、教職員数250名/5年			①11月29日以降実施 ②学生1,214名・教職員463名/4年 （取組1-1,2,3合算）（11月30日現在）					
活動指標に対する実績 【活動指標】①各年参加者数450名以上 【内訳】学生数400名以上 教職員数50名以上			参加者数57名（学生0名、教職員57名）（11月30日現在）					
自己評価基準：対到達目標※			3			—		
自己評価基準：対継続性※			3			—		
事業収支	収入	3,938,050円	支出	2,080,238円	収支	1,857,812円	支出	収支
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）								
※自己評価基準：対到達目標			4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った			※自己評価基準：対継続性		
						4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき		

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（①取組1-2）】県内企業への就職率向上促進プログラム

計画（4月記載）			自己評価（12月記載）			報告（3月記載）		
<p>【県内企業への就職率向上促進プログラム】</p> <p>【趣旨】兵庫県総務部教育課の受託事業以外で、就職活動の急激な変化や多様化に柔軟に対応することを目的とした事業の枠組。加盟校と地元企業が連携し、現場の課題やニーズを共有して、若者の地元定着や地域の活性化に向けたキャリア支援プログラムの実施を目指す。また、この事業枠での取り組みを受託事業として展開し、継続実施に繋げることも視野に入れる。事業予算は、前頁取組1-1教育課の新たな取り組みに繋げることが出来るものは、確認の上、取組1-1の予算から拠出する。</p> <p>【取組予定案】</p> <p>(1)バーチャル合説</p> <p>(2)兵庫県労政福祉課主催の県内企業合説やバスツアー等の共催</p> <p>(3)兵庫労働局との事業共催</p>			<p>【県内企業への就職率向上促進プログラム】</p> <p>【活動内容】（予定）</p> <p>(1)2025年12月4日(木)5日(金) ひょうごJOBフェア2025 共催：兵庫労働局</p> <p>(2)2026年1月16日(金)神戸商工会議所会員企業と留学生の交流会 共催：神戸商工会議所</p> <p>(3)2026年1月17日(土)ひょうごWEB企業研究フェア 共催：はりまっち、ひょうご仕事と生活センター</p> <p>【自己評価】</p> <p>就活の通年化、多様化に伴い学生の就職活動が分散している現状、一人でも多くの学生の状況を把握し、今後のキャリア委員会事業に活かす。連携先を増やし、チャネルを広げることで、多様な学生の県内定着に柔軟に対応し、支援が必要な学生の取りこぼし策を講じることは、コンソとして意義のある取組と考える。</p>					
<p>達成目標に対する実績</p> <p>【達成目標】①本プログラムへの参加を通じて、兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上</p> <p>②参加者数：2500名以上/5年 〔内訳〕学生数2250名以上/5年、教職員数250名/5年</p>			①12月4日以降実施 ②学生1,214名・教職員463名/4年 （取組1-1, 2, 3合算）（11月30日現在）					
<p>活動指標に対する実績</p> <p>【活動指標】①各年参加者数450名以上 〔内訳〕学生数400名以上 教職員数50名以上</p>			12月4日以降実施予定					
自己評価基準：対到達目標※			3			—		
自己評価基準：対継続性※			3			—		
事業収支	収入	0円	支出	0円	収支	0円	支出	収支
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）								
※自己評価基準：対到達目標			4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った			※自己評価基準：対継続性		
						4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき		

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（案）（①取組1-3）】「尼崎市」大学生等向けオープンカンパニー（インターンシップ等推進事業）

計画（4月記載）			自己評価（12月記載）			報告（3月記載）		
【尼崎市経済環境局経済部しごと支援課受託事業 大学生等向けオープンカンパニー（インターンシップ等推進事業）】 【趣旨】大学生等を対象に、市内企業の魅力を発信し、さらに体感できる機会を提供すること で、若者の社会人基礎力を育成するとともに、市内企業の事業活動の活性化及び市内企業 への就職を促進する。具体的には、尼崎市内の企業（中小・大手の事業者等）を複数社組み 合わせた職場体験イベントを実施する。 【実施時期】令和7年8～9月（大学夏季休暇期間） 【対象】2027年卒業予定の大学生・短大生・高専生等（左記主体、全学年参加可能） 【目標人数】5社15名以上の参加（1社1人～5人の参加目途） 【内容】市内企業3社を1コース（1社半日～1日程度）とし、各事業所の業務内容や業界 説明、工場見学等も取り入れた職場体験を行う。 【事業委託内容】 (1)参加学生募集の広報活動 チラシの作成やインターネットを利用した情報発信など (2)参加学生の選考・管理 申込書を作成の上、目標人数の参加学生確保に努め、必要に応じて 尼崎市と協議の上、選考を実施。参加学生に職場体験や傷害保険に関する 案内、質疑応答等 (3)職場体験同行、アンケート集計、報告書等作成 【スケジュール】 ・5月下旬：学生募集開始 ・7月上旬：学生募集締切、学生選考 ・8～9月：職場体験（実施日は上記期間中の1.5～2日間（コース別日程調整中） ・9月～10月：アンケート集計、報告書作成、アマポータル掲載			【尼崎市経済環境局経済部しごと支援課受託事業 大学生等向けオープンカンパニー（インターンシップ等推進事業）】 【活動内容】 下記5社にて半日～1日のオープンカンパニーを実施 ○株式会社日興商会 ・実施日：8月20日（水） ・参加学生数：7名 ○株式会社タクマ ・実施日：8月27日（水） ・参加学生数：3名 ○株式会社三鷹倉庫 ・実施日：8月28日（木） ・参加学生数：2名 ○日本山村硝子株式会社 ・実施日：9月5日（金） ・参加学生数：3名 ○株式会社近鉄・都ホテルズ 都ホテル尼崎 ・実施日：9月11日（木） ・参加学生数：7名 延べ参加学生数：22名、9大学等 オープンカンパニー実施後、アンケート集計 アマポータルに掲載 https://amaportal.jp/news_detail.php?n=193&k=0 【自己評価】 学生は会社説明だけでなく、実務の体験や社員との対話を通じて企業理解を深め、企業側も 若者の価値観に触れることで採用や地域貢献の新たな視点を得ることができた。参加満足度 は高く（5点満点中「5点」評価が最多（19人/22人））、交流の質も充実していたといえる。 一方で、参加学生募集に苦戦するなど、同様の方法での今後の事業継続に関しては、検討が 必要と考える。今度、大学コンソの枠組みを利用して、大学・行政・企業と連携し、学生の 変化に対応した柔軟な設計を追求しながら、地域と若者をつなぐ持続可能な仕組みづくりを 進める必要がある。					
達成目標に対する実績 【達成目標】①本プログラムへの参加を通じて、兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生 の割合：参加学生の80%以上 ②参加者数：2500名以上/5年　【内訳】学生数2250名以上/5年、教職員数250名/5年			①100% ②学生1,214名・教職員463名/4年 （取組1-1, 2, 3合算）					
活動指標に対する実績 【活動指標】①各年参加者数450名以上　【内訳】学生数400名以上　教職員数50名以上			参加者数22名（学生22名、教職員0名）					
自己評価基準：対到達目標※			3			—		
自己評価基準：対継続性※			2			—		
事業収支	収入	1,339,000円	支出	1,339,000円	収支	0円	支出	収支
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）								
※自己評価基準：対到達目標			4：当初計画を上回って達成　3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った　1：当初計画を下回った			※自己評価基準：対継続性		
						4：本プログラムは継続すべき　3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要　1：本プログラムは中止すべき		

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（①取組2）】県内企業・団体等の魅力を情報発信

計画（4月記載）				自己評価（12月記載）				報告（3月記載）			
<p>「地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト」に随時情報公開</p> <p>【現在の企業情報の掲載内容】兵庫県内企業153社掲載中（2025年3月時点）</p> <p>(1) コンソHPから企業HPへのリンク掲載 業種、資本金、売上高、従業員数、本社所在地、事業内容、経営方針、特色・強み、採用情報</p> <p>(2) コンソHP上の一覧表示</p> <ul style="list-style-type: none">・留学生採用の有無・求める日本語力・ミモザ企業・地域未来牽引企業・兵庫県奨学金返還制度利用企業・WLB表彰企業・WLB認定企業 <p>【取組内容】 掲載企業情報の内容を充実するため、(2)の一覧表示の掲載情報を追加する。</p> <p>【スケジュール】 掲載情報の追加内容を確定（8月頃）、 本年度版「地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト」（12月）に反映する</p> <p>【追加情報案】</p> <ul style="list-style-type: none">・くるみんマーク（子育てサポート企業）・ひょうごオンリーワン企業・ユースエール認定企業・その他 <p>【掲載ページ】地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト https://consortium-hyogo.jp/kigyojoho/company.html</p>				<p>「地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト」に随時情報公開</p> <p>【現在の企業情報の掲載内容】兵庫県内企業153社掲載中（2025年12月時点）</p> <p>(1) コンソHPから企業HPへのリンク掲載 業種、資本金、売上高、従業員数、本社所在地、事業内容、経営方針、特色・強み、採用情報</p> <p>(2) コンソHP上の一覧表示</p> <ul style="list-style-type: none">・留学生採用の有無・求める日本語力・ミモザ企業・地域未来牽引企業・兵庫県奨学金返還制度利用企業・WLB表彰企業・WLB認定企業 <p>【取組内容】 掲載企業情報の内容を充実するため、(2)の一覧表示の掲載情報を追加する。</p> <p>【追加情報】（案）</p> <ul style="list-style-type: none">・くるみんマーク（子育てサポート企業）・ユースエール認定企業 <p>【掲載ページ】地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト https://consortium-hyogo.jp/kigyojoho/company.html</p>  <p>【自己評価】 ワーク・ライフ・バランスや待遇の向上が重視される現在の状況において、子育て支援やユースエール認定企業などの情報を取り上げ、明確に示すことは、学生が企業を選ぶ際の参考となるだけでなく、キャリア支援担当者による学生指導の一助としても有用である。</p>							
達成目標に対する実績 【達成目標】情報公開企業・団体数：120社以上				153社							
活動指標に対する実績 【活動指標】企業情報の追加掲載 2種類以上				追加情報掲載2種類（12月中に掲載予定）							
自己評価基準：対到達目標※				4				—			
自己評価基準：対継続性※				4				—			
事業収支		収入	0円	支出	0円	収支	0円	支出		収支	
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）											
※自己評価基準：対到達目標			4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った			※自己評価基準：対継続性			4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき		

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（④取組1-1①）】ひょうご留学生インターンシップ

計画（4月記載）			自己評価（12月記載）				報告（3月記載）																		
<p>(1)【ひょうご留学生インターンシップ】</p> <p>【趣旨】個別大学では実施が困難な留学生に特化したインターンシップの機会提供を共同で実施し、留学生の県内企業等への就職意欲の向上を図る。参加留学生のニーズを勘案のうえ、受入企業・団体等を決定する。</p> <p>【プログラムスケジュール】</p> <table><tr><td>・インターンシップ説明会（オンライン）</td><td>4月21日（月）</td></tr><tr><td>※4月22日～5月25日までオンデマンド配信</td><td></td></tr><tr><td>・受け入れ企業説明会（オンライン）</td><td>5月22日（木）</td></tr><tr><td>・エントリー学生ガイダンス</td><td>6月3日（火）</td></tr><tr><td>・エントリー学生と企業の交流会</td><td>6月7日（土）</td></tr><tr><td>・実習先への事前訪問</td><td>7月～8月頃</td></tr><tr><td>・企業・団体実習期間</td><td>8月～9月頃</td></tr><tr><td>・報告会・修了交流会</td><td>9月20日（土）</td></tr></table> <p>【追記】国際交流委員会における留学生定着支援の取組の1つとして、英語トラック留学生も当プログラムに参加予定。プログラム進行、留学生支援等、国際交流委員会と連携して実施する。</p> <p>※インターンシップ番外編</p> <p>『国際交流機関 職場体験リレー』（国際交流員会と連携協働事業）</p> <p>【趣旨】国際交流や協力機関での就職を希望する学生等を対象に、各機関リレー形式で、職場体験を留学生と日本人学生がペアになって実施する。学生の業界研究、就職促進及び海外留学の機運醸成、また、多国籍チームで実施することによる、価値観が異なる者同士が協働して成果を出す方法を考える機会等を提供する。</p> <p>【受入予定機関】JICA関西、兵庫県国際交流協会、JETRO神戸、コンソ</p> <p>【受入時期】8月～9月、各機関1～2日で合計5日以上</p> <p>【実施背景】当コンソ、JICA関西、兵庫県国際交流協会、JETRO神戸との4者協定に伴う連携事業の1つとして</p> <p>(2)【外国人向け合同企業説明会】</p> <ul style="list-style-type: none">・留学生向け合同企業説明会（2025年6月25日）・留学生と県内企業とのマッチングを行う企業説明会・就職セミナー等を開催する <p>主催：神戸市、兵庫県、ひょうご神戸国際ビジネススクエア （神戸市海外ビジネスセンター、ひょうご海外ビジネスセンター、JETRO神戸）</p>			・インターンシップ説明会（オンライン）	4月21日（月）	※4月22日～5月25日までオンデマンド配信		・受け入れ企業説明会（オンライン）	5月22日（木）	・エントリー学生ガイダンス	6月3日（火）	・エントリー学生と企業の交流会	6月7日（土）	・実習先への事前訪問	7月～8月頃	・企業・団体実習期間	8月～9月頃	・報告会・修了交流会	9月20日（土）	<p>(1)【ひょうご留学生インターンシップ】</p> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・インターンシップ説明会（オンライン）4月21日 <p>参加学生数：10校28名</p> <ul style="list-style-type: none">・受け入れ企業説明会（オンライン）5月22日 <p>参加企業数：20社29名</p> <p>参加行政数：1行政2名</p> <p>参加（一般）：1名</p> <ul style="list-style-type: none">・エントリー学生ガイダンス 6月3日 <p>参加学生数：15校127名</p> <p>参加企業数：1社2名</p> <ul style="list-style-type: none">・エントリー学生と企業の交流会 6月7日 <p>参加学生数：14校118名</p> <p>参加企業数：20社41名</p> <p>参加教職員数：8校8名</p> <p>参加行政数：1行政2名</p> <ul style="list-style-type: none">・企業・団体でのインターンシップ 8月～9月 <p>参加学生数：13大学83名</p> <p>参加企業数：28社</p> <p>参加団体数：1団体</p> <ul style="list-style-type: none">・インターンシップ報告会 9月20日 <p>参加学生数：10校58名</p> <p>参加企業数：19社29名</p> <p>参加教職員数：8校9名</p> <p>参加行政・団体数：1行政2名、1団体2名</p> <p>※インターンシップ番外編</p> <p>『国際交流機関 職場体験リレー』（国際交流委員会と連携協働事業）</p> <p>実施期間：2025年8月25日～9月5日・各機関1～2日</p> <p>受入機関：JICA関西、兵庫県国際交流協会、JETRO神戸、コンソ</p> <p>参加学生数：3校6名</p> <p>参加職員数：4機関4名</p> <p>受入機関4社協定に伴う連携事業の一つとして実施。参加者がインターンシップをすることにより国際協力や多文化共生に興味を持ち、各国際交流機関への理解を深めた。</p> <p>2025年6月25日【留学生向け合同企業説明会】</p> <p>主催 神戸市・兵庫県</p> <p>参加学生数：留学生15校155名</p> <p>【自己評価】</p> <p>ひょうご留学生インターンシップでは、16年で663名の修了生を輩出し、その6割以上が日本で就職するなど日本での就職を希望する留学生にとって意義のある事業となっている。受入企業からは高い評価を得、参加した留学生の意識の向上も認められるなど、当初期待以上の効果を上げることができた。参加留学生からは、「日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合100%」と留学生の日本での就職に好影響を及ぼしていることが分かる。次年度も加盟大学の理解と協力を得て、連携をさらに深めながらプログラム推進に励みたい。</p>						
・インターンシップ説明会（オンライン）	4月21日（月）																								
※4月22日～5月25日までオンデマンド配信																									
・受け入れ企業説明会（オンライン）	5月22日（木）																								
・エントリー学生ガイダンス	6月3日（火）																								
・エントリー学生と企業の交流会	6月7日（土）																								
・実習先への事前訪問	7月～8月頃																								
・企業・団体実習期間	8月～9月頃																								
・報告会・修了交流会	9月20日（土）																								
達成目標に対する実績 【達成目標】 ①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上 ②参加留学生数：2500名以上/5年			①100% ②参加留学生数3,519名/4年																						
活動指標に対する実績 【活動指標】 各年参加留学生数500名以上			575名/年																						
自己評価基準：対到達目標※			4				—																		
自己評価基準：対継続性※			4				—																		
事業収支	収入	1,600,000円	支出	1,175,443円	収支	424,557円	支出		収支																
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）																									
※自己評価基準：対到達目標				※自己評価基準：対継続性				4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき																	

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（④取組1-1②）】「尼崎市」留学生向けインターンシップ（インターンシップ等推進事業）

計画（4月記載）			自己評価（12月記載）			報告（3月記載）		
【尼崎市経済環境局経済部しごと支援課受託事業 留学生向けインターンシップ（インターンシップ等推進事業）】			【尼崎市経済環境局経済部しごと支援課受託事業 留学生向けインターンシップ（インターンシップ等推進事業）】					
【趣旨】 尼崎市内企業の事業活動の活性化及び市内企業への就職を促進する取組として、日本で就職を希望する外国人留学生に特化したインターンシップの機会を提供するとともに、企業に対し、留学生の能力や職業観、社内での多文化共生社会への理解を深める機会を提供することで、外国人材採用の機運を醸成する。			【活動内容】 詳細は、前頁の（④取組1-1①）ひょうご留学生インターンシップをご参照。 （同枠組み内で実施しているため）					
【実施内容】 前頁④取組1-1(1)のひょうご留学生インターンシップの枠組みで同時開催する。			・参加学生数：5校16名 ・参加企業数：6社					
【目標人数】 5社15名以上の参加（1社1人～3人の参加目安）			内訳 ○株式会社eftax ・参加学生数：4名 ○株式会社大林 ・参加学生数：1名 ○大和建工材株式会社 ・参加学生数：3名 ○株式会社フジ・データ・システム ・参加学生数：3名 ○株式会社ヤマシタワークス ・参加学生数：3名 ○山村ロジスティクス株式会社 ・参加学生数：2名					
【プログラムスケジュール】 ・インターンシップ説明会（オンライン） 4月21日（月） ※4月22日～5月25日までオンデマンド配信 ・受け入れ企業説明会（オンライン） 5月22日（木） ・エントリー学生ガイダンス 6月3日（火） ・エントリー学生と企業の交流会 6月7日（土） ・実習先への事前訪問 7月～8月頃 ・企業・団体実習期間 8月～9月頃 ・報告会・修了交流会 9月20日（土） （＋以下が尼崎市の独自取組となる） ・アマポータルへ活動記事掲載 10月頃			【自己評価】 留学生は実務体験を通じて日本企業への理解を深め、企業は多様な人材との交流から新たな気づきを得ることができた。尼崎市という生活・通勤の利便性に優れた地域での実習は、留学生にとっても働く・生活するイメージを具体化する好機となった。尼崎市内企業と外国人留学生の出会いを通じて、地域における人材定着と企業の国際化を促進する有意義な取り組みであった。今後も、企業の受け入れ体制支援や異文化理解の促進をするとともに、大学・行政・企業が連携して、兵庫県内各地域の特徴も加味し、各地域に根ざした持続可能な人材定着という観点も加えた取組としていきたい。					
達成目標に対する実績 【達成目標】 ①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上 ②参加留学生数：2500名以上/5年			①100% ②参加留学生数3,519名/4年					
活動指標に対する実績 【活動指標】 各年参加留学生数500名以上			575名/年（④取組1-1①に含む）					
自己評価基準：対到達目標※			4			—		
自己評価基準：対継続性※			4			—		
事業収支	収入	1,411,000円	支出	1,411,000円	収支	0円	支出	収支
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）								
※自己評価基準：対到達目標			※自己評価基準：対継続性			4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき		
4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った								

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（④取組1-2）】「兵庫県」外国人留学生採用ワンストップ支援事業

計画（4月記載）			自己評価（12月記載）			報告（3月記載）		
<p>【兵庫県産業労働部国際局国際課経済交流班受託事業 「外国人留学生採用ワンストップ支援事業」】</p> <p>【事業内容】 (1)外国人留学生採用ワンストップ相談窓口の設置 ①窓口相談 日本での就職を希望する留学生及び留学生の採用を検討している企業の双方からの相談を[対面・オンライン・メール・電話等]により実施し、それぞれの実情に即したアドバイスを行う。 ア:窓口相談の対象者 a 留学生（既卒の就職者を含む。） b 留学生の採用を検討している企業及び留学生を採用した企業 イ:相談内容 a 留学生の国内就職に関する相談及び県内企業による採用・人材活用に関する相談対応 b 留学生向け合同企業説明会やインターンシップ等の紹介 ②専門家派遣等 留学生の採用及び人材活用に係る高度な相談に専門家と連携して対応するとともに、必要に応じて専門家が企業を訪問し、指導・助言を行うことで企業側の受入体制を整備する。 ア:対象 留学生採用検討の企業、留学生採用中の企業 イ:内容 a 留学生の採用・人材活用に係る専門的な内容に対する面談または電話での相談対応 b 留学生の受入体制整備等に向けた相談企業へ専門家派遣 (2)外国人留学生採用促進セミナーの開催 留学生の採用や入社後の人材活用にに向けた企業向け啓発セミナーを実施することにより、県内企業における人材確保を促進する。また、セミナーの内容をアーカイブ配信し、県内企業への効果的な啓発を実施する。 ①対象 留学生の採用を検討している県内企業 ②回数 年1回 ③内容 留学生に対する基本的な理解促進、先進事例及び支援事業紹介 (3)情報収集 留学生の就職に関する各種情報の収集に努めるとともに、県内企業による相談窓口活用を促す。</p> <p>【業務体制】 (1)相談窓口には相談員を1名配置する。 (2)相談員は外国人留学生のキャリアアップ支援等に従事した経験があり、企業・外国人留学生の双方への相談対応が可能な人材 (3)相談窓口の開所時間は、月・水・金曜日の9:00～16:00（年末年始、祝日除く）</p>			<p>【兵庫県産業労働部国際局国際課経済交流班受託事業 「外国人留学生採用ワンストップ支援事業」】</p> <p>【活動内容】 (1)外国人留学生採用ワンストップ相談窓口の設置 ①窓口相談 日本での就職を希望する留学生及び留学生の採用を検討している企業の双方からの相談を[対面・オンライン・メール・電話等]により実施し、それぞれの実情に即したアドバイスを行う。 ・参加留学生：92名 160件 ・参加企業 73社 94件 ②専門家派遣等 留学生の採用及び人材活用に係る高度な相談に専門家と連携して対応するとともに、必要に応じて専門家が企業を訪問し、指導・助言を行うことで企業側の受入体制を整備する。 ・専門家派遣利用者：2社2件 (2)外国人留学生採用促進セミナーの開催 留学生の採用や入社後の人材活用にに向けた企業向け啓発セミナーを実施することにより、県内企業における人材確保を促進する。また、セミナーの内容をアーカイブ配信し、県内企業への効果的な啓発を実施する。 ①対象 留学生の採用を検討している県内企業 ②実施日時 2月16日(月)予定 ③内容 外国人採用に対する基本的な理解促進、先進事例及び支援事業紹介</p> <p>【業務体制】 相談窓口には相談員を1名配置</p> <p>【自己評価】 外国人留学生と県内企業双方への相談対応を通じて、就職支援と採用促進の橋渡しを行うことができた。大学キャリアセンターでは対応が難しい在留資格や文化的配慮を要する相談や4年生、卒業後の留学生の相談にも応じ、各大学の支援体制を補完する役割を果たした。さらに、入管・ハローワーク・日本語教育機関等との連携も深まり、留学生支援のネットワーク強化にもつながった。今後も多機関連携を基盤に、留学生の定着と企業の人材確保に資する支援体制の充実を図っていききたいと考える。</p>					
達成目標に対する実績 ①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上 ②参加留学生数：250名以上/5年			①97%②355名/4年（11月30日現在）					
活動指標に対する実績 各年参加留学生数：50名以上			92名（11月30日現在）					
自己評価基準：対到達目標※			4			—		
自己評価基準：対継続性※			4			—		
事業収支	収入	6,291,000円	支出	2,981,042円	収支	3,309,958円	支出	収支
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）								
※自己評価基準：対到達目標			※自己評価基準：対継続性					
4：当初計画を上回って達成 2：当初計画をやや下回った			3：当初計画を達成 1：当初計画を下回った			4：本プログラムは継続すべき 2：本プログラムの継続には改善が必要		
						3：本プログラムは継続しても良い 1：本プログラムは中止すべき		

大学キャリア教職員と企業人事担当者等との情報交換会・懇親会 実施要項（案）

●趣 旨

主に加盟校の学生・留学生のキャリア支援に従事する大学教職員と、企業の採用・人事担当者が効率よく情報交換や懇談を行い、相互理解を深め関係性を構築することを通して、学生・留学生の就職・採用の支援に寄与することを目的とする。

今年度は例年別日程で実施していた以下の取組①～③に加え、新たな取組④を本会に集約し、大学教職員と企業の人事担当者等との実務的な意見交換、懇談を中心に構成する。

- ① 兵庫県総務部教育課受託事業の[大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進事業]における「丹波地域人材確保協議会との情報交換会」と「淡路市商工会との情報交換会」
- ② 兵庫県産業労働部国際局国際課経済交流班（以下「兵庫県産業労働部国際課」と記す）受託事業の[外国人留学生採用ワンストップ支援事業]におけるセミナー開催
- ③ 賛助会員企業を対象とした大学キャリア教職員との懇親会
- ④ 兵庫県総務部教育課受託事業の[大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進事業]における、みなと銀行採用応援パック会員企業との情報交換会

これらを第4回大学コンソーシアムひょうご神戸キャリア委員会終了後（①、③、④）及びキャリア委員会と同時開催（②）に開催することで、参加者の負担軽減と交流の実効性向上を図る。また、みなと銀行との連携を通じて、今後の県内活性化につながる産官学金での協働への機運も高める。

なお、本会には加盟校外の大学教職員の参加も認めており、県下すべての大学のためのコンソとしての開かれた連携姿勢を示し、今後の協力会員の獲得も視野に入れ、地域全体での人材育成・定着に向けた協働の促進を目指す。

●日時・会場：2026 年 2 月 16 日(月) 兵庫国際交流会館

【13:00～14:20】同時開催

- ・第4回大学コンソーシアムひょうご神戸 キャリア委員会 [2 階 研修室]
- ・外国人留学生採用・定着に纏わるセミナー [1 階 ナダコムステーション]

【14:30～17:00】

大学キャリア教職員と企業人事担当者等との情報交換会・懇親会[3 階 多目的ホール]

●参加対象：・加盟校教職員 34 校

- ・その他大学教職員（新規加盟校や協力会員となる可能性がある学校など）5 校前後
- ・賛助会員 62 社
- ・みなと銀行採用応援パック会員企業 31 社
- ・丹波地域人材確保協議会会員企業 15 社(昨年実績)
- ・淡路市商工会会員企業 7 社（昨年実績）

（運営スタッフ：みなと銀行、丹波地域人材確保協議会、淡路市商工会 から数名）

- 補足事項：1)外国人留学生採用・定着に纏わるセミナーの同時開催は、日本人学生の減少と留学生の増加を背景に、日本人学生と同じ土俵で就職活動をする留学生が増加していること。企業にとって留学生が重要な人材の選択肢となりつつある現状を考慮した。
- 2)加盟校外の大学教職員の参加は、企業参加数に対する大学側の参加数補填の目的も含む。

【各回詳細、スケジュール及び開催形式（案）】 場所：兵庫国際交流会館

時間	内容	内容
13:00～14:20	<p>第4回コンソキャリア委員会</p> <p>●場所：2階 研修室1</p> <p>●内容：2026年度事業計画・予算（案）等</p> <p>●想定規模：25名程度（23校）</p> <p>●参加対象</p> <p>大学：コンソキャリア委員</p>	<p>外国人留学生採用・定着に纏わるセミナー</p> <p>（受託）外国人留学生採用ワンストップ支援事業</p> <p>●場所：1階 ナダコムステーション</p> <p>●主催：コンソ、兵庫県産業労働部国際課</p> <p>●想定規模：60名程度（10校40社程度）</p> <p>●参加対象</p> <p>大学：加盟校、加盟校外教職員等</p> <p>企業：賛助会員</p> <p>みなと銀行採用応援パック利用企業</p> <p>丹波地域人材確保協議会会員企業</p> <p>淡路市商工会会員企業</p> <p>その他企業</p> <p>行政：兵庫県、その他自治体</p>
14:20～14:30	休憩・会場配置転換・会場整備	
14:30～	<p>大学キャリア教職員等と企業人事担当者等との情報交換会・懇親会</p> <p>（受託）大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進事業</p> <p>●場所：3階 多目的ホール</p> <p>●主催：コンソ、兵庫県総務部教育課、みなと銀行</p> <p>●想定規模：120名程度（30校/1～2名、80社程度）</p> <p>●参加対象</p> <p>大学：加盟校、加盟校外教職員等</p> <p>企業：賛助会員</p> <p>みなと銀行採用応援パック利用企業、丹波地域人材確保協議会会員企業</p> <p>淡路市商工会会員企業</p> <p>行政：兵庫県</p> <p>自治体会員</p>	
14:30～14:40	挨拶、趣旨説明	
14:40～16:15	<p>[前編]：情報交換会（指定席）</p> <p>・12～16テーブルにグループ分け（1グループ8～10人）し、情報交換</p> <p>・15分に1回席替え（企業か大学が固定）×6回実施</p> <p>・1グループの構成は、（大学、自治体2～4人）：（企業6～8人）</p> <p>・事前に大学から、情報交換を希望する企業を第5希望まで確認</p>	
16:20～16:50	<p>[後編]：懇親会（自由席）</p> <p>・自由なネットワーキング形式</p>	
16:50～17:00	総括等・閉会	
17:00～17:30	17:30まで会場オープン 名刺交換等、自由交流	

開催形式
（案）

※想定規模は前年度の参加者数を目安にしています。

※開催形式は参加大学数、企業数により変更する可能性があります。

1
開会挨拶
シンポジウム①2
シンポジウム②
情報交換会3
ポスターセッション
・パネル展示4
分科会5
学生の活躍

第22回 全国大学コンソーシアム 研究交流フォーラム 報告書

2025.8.30(土)-31(日)
兵庫県開催

会場：神戸学院大学 ポートアイランド第1キャンパス



大学コンソーシアムひょうご神戸枠 計331名

- ・加盟校の教職員 24校146名
- ・加盟校学生 12大学74名
- ・企業 33社59名
- ・自治体 10自治体27名
- ・一般 8名
- ・コンソ職員 17名

他エリアからの参加 計130名

- ・大学教職員 79名
- ・学生 10名
- ・企業 12名
- ・自治体 6名
- ・コンソ職員 23名

参加者合計 461名

- ・シンポジウム 334名
- ・情報交換会 241名
- ・分科会 131名
- ・SDワークショップ 58名
- ・「ライフロングキャリア」共創セッション 52名



共催

全国大学コンソーシアム協議会、
一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

協力

神戸学院大学(会場校)

後援

文部科学省 / 一般社団法人国立大学協会 / 一般社団法人公立大学協会 /
一般社団法人日本私立大学連盟 / 日本私立大学協会 / 全国公立短期大学協会 /
日本私立短期大学協会 / 全国知事会 / 朝日新聞社 / 毎日新聞社 / 読売新聞社 /
日本経済新聞社 大阪本社 / 一般社団法人共同通信社 / 兵庫県 / 神戸市 /
神戸新聞社 / 神戸商工会議所 / 一般社団法人兵庫県経営者協会

テーマ

激変する将来社会を切り拓く
新たな人材の育成にむけて

～不易流行で考える大学間連携と産官学協働～

開会挨拶／シンポジウム①

ご挨拶



フォーラム 開会挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 森 康俊 氏
(関西学院大学 学長)

大学コンソーシアムひょうご神戸は、2006年に「県下すべての大学によるすべての大学のための」組織として設立され、本年で20年目を迎える。国際性を軸に留学生インターンシップや相談窓口等を継続しており、東日本大震災復興支援や「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」による防災啓発にも取り組む。少子化やAIの進展等、変化の大きい環境下で、人材育成には産学官協働が不可欠であり、教育の本質を守りつつ革新を取り入れる「不易流行」の姿勢が求められる。本フォーラムは、大学間連携の役割を見つめ直し、多様な立場から意見交換を行う機会として開催する。



フォーラム 開会挨拶

兵庫県副知事
服部 洋平 氏



全国大学コンソーシアム協議会
代表幹事 小原 克博 氏
(大学コンソーシアム京都 理事長、
同志社大学 学長)

大学コンソーシアム京都
専務理事、事務局長
小林 慎一 氏(代読)



フォーラム 開会挨拶

全国大学コンソーシアム協議会
代表幹事 川野 祐二 氏
(エリザベト音楽大学
理事長・学長)



情報交換会 開会挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸
理事 備酒 伸彦 氏
(神戸学院大学 学長)



情報交換会 乾杯挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸
副理事長 藤澤 正人 氏
(神戸大学 学長)

シンポジウム①話題提供

テーマ 大学間連携と地域共創

～社会変革期におけるコンソーシアムの可能性～

演名理事から冒頭、中教審「知の総和」答申で、大学間連携の必要性が高まっており、大学を「地域課題解決に資する知の拠点」と位置づけ、地方自治体や産業界との連携による共創の場となることが求められているとの説明がありました。

吉見先生からは「人口減少とAI化のなかの大学の未来」というテーマで、AIによる「知の総和」答申の分析の披露から、日本の大学の置かれている危機的状況、教育の質向上が不可欠な状況と、そのために必要な大学改革、文理融合ではない文理複眼教育の姿、リカレント教育の本質化のための高等教育の転換、最後に今後の大学のミッションとして地球人を育成するために、大学と地域のあるべき姿等、多くの示唆に富んだ話題提供がありました。

続いて岡田氏からは、ご自身の事業承継と新たな事業創出における経験を通じた、産学官連携の可能性と課題についてお話があり、次に島藤氏からは、企業における人材育成の現状紹介と、大学が地域、企業と連携して提供する新たなリカレント教育モデルについて提案がありました。

最後に登壇した本荘氏からは、立ち上げ時から関わってこられた「大学コンソーシアムひょうご神戸」について、いくつかのターニングポイントとご自身の経験を紹介され、コンソーシアムのあるべき姿についてお話をいただきました。

登壇者 日本テクノロジーソリューション株式会社
代表取締役社長 岡田 耕治氏

エクスアールジョン株式会社
代表取締役 島藤 真澄氏

國學院大学 観光まちづくり学部 教授 吉見 俊哉氏
東京大学 名誉教授

関西学院大学
学生活動支援機構事務部 部長 本荘 雅章氏

大学コンソーシアムひょうご神戸
理事(関西国際大学 学長) 濱名 篤氏

1 開会挨拶
シンポジウム①2 シンポジウム②
情報交換会3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

シンポジウム②・情報交換会

シンポジウム②
ディスカッション

まず、質疑応答では、日本の高等教育が欧米キャッチアップ型で形成されてきたことの問題点や、AIへの問題認識とAIの限界についてのお話がありました。さらに、大学教育においては学生が「AIより自分自身の回答が正しい」と思える論争力や経験力の育成が重要であるとの指摘がありました。続いて、自治体・大学・産業界が教育について議論する際には、その地域の未来を見据えたビジョンが必要ではないかとのお話がありました。

その後の意見交換では、市場原理主義の行き着いた結果としての東京一極集中(東京ブラックホール論)に関する話題が提供され、これを中心に議論が進行しました。大学と産業界の連携において、コンソーシアムは、どのようなストーリーを紡ぎ出せるのか、また、どのように大学と産業界との時間軸の違いを仲立ちするのかについての言及がありました。さらに、産業界や自治体と大学を結ぶコンソーシアムについては、主体性をどこに置くのかや、アカデミックとしての価値をコンソーシアムが提供してほしいとの意見が出ました。地域と大学間連携については、持続可能性が重要であり、兵庫県を始め地方にはそういった意味での価値があること、そしてコンソーシアムと企業連携には、地域の共通課題の解決に向けて共創を意識することが重要であることが再確認されました。

アンケート
から

「AIとの付き合い方」や「これからの大学コンソーシアムの役割」等、有識者の多様な視点に触れられたことが大きな学びとなったとの声が多く寄せられた。特に、吉見先生による「大学は人生で3度通う場である」という提起や、「学生の潜在力をどう伸ばすか」という問いかけは、大学の存在意義を改めて考える契機となった。また、AIを盲信するのではなく、人間の知とどう共存させるかという視点も印象に残ったとの意見が多く見られた。

さらに、企業経営者から語られた「早い段階でジャンルを決めず、まず挑戦してみる姿勢」「スピード以外の軸で物事をとらえる重要性」等は、学生教育や大学運営にも示唆を与える内容として高く評価された。

そのほか、「産官学が交わり新たな価値を生み出すことの意義」や、「大学間連携の今後の方向性を深く考える機会となった」という声も寄せられ、大学・企業・行政の立場を越えて交流できたこと自体が、今後の活動の糧になるとの感想が目立った。全体を通じて、登壇者の知見や多角的な議論は「参考になった」「自団体の取組に活かしたい」と前向きに受け止められており、シンポジウムは大学の未来と社会との接点を考える有意義な場として高い評価を得た。

第22回 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム
激変する将来社会を切り拓く新たな人材の育成にむけて
～情報交換会～



情報交換会



全国から集まった大学・コンソーシアム関係者や企業、地方自治体の皆さまを迎えた立食形式の情報交換会は、鏡開きで華やかに開幕。続いて、灘の酒リブランディングに取り組んでいる神戸学院大学の学生が乾杯用の日本酒を配布し、会場の一体感を高めました。

兵庫に根差した企業によるブース出展等では、地元ならではの料理や飲料が振る舞われ、参加者は味覚を楽しみながら交流を深めました。ポスターセッションや学生司会によるレクリエーションも加わり、和やかな雰囲気の中、交流を深める貴重なひとときとなりました。

アンケート
から

様々な気づき、出会いがあり、有意義かつ楽しい場であった。コンソーシアムは大きな可能性があり、大学、企業、自治体が共にどう活用していくかが問われている。地域の持続可能性を確保する上で欠かせないと感じた。

情報交換会では沢山の大学職員、企業の方とお会いし、留学生支援のネットワークを構築できた。

1 開会挨拶
シンポジウム①2 シンポジウム②
情報交換会3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

3 ポスターセッション・パネル展示

1 開会挨拶
シンポジウム①

2 シンポジウム②
情報交換会

3 ポスターセッション・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

1日目 ポスターセッション

各大学コンソーシアムが主体となった教育連携や地域貢献の取組を11団体が紹介。大学関係者に加え企業や学生等多くの方々が来場し、展示内容をじっくり見学するとともに活発に意見交換や情報共有を行いました。各コンソーシアムの先進的な事例や、創意工夫に富む多様な活動に触れる貴重な機会となりました。

【出展団体】公益財団法人 大学コンソーシアム京都、公益社団法人 ふじのくに地域・大学コンソーシアム、大学コンソーシアム八王子、大学コンソーシアムやまがた、いわて高等教育コンソーシアム、一般社団法人 教育ネットワーク中国、一般社団法人 高等教育コンソーシアム宮崎、公益社団法人 大学コンソーシアム石川、大学コンソーシアム岡山、一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸、特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

アンケートから

時間が長く設定されていたので、他エリアのコンソの方々とじっくりお話をすることで、他のコンソの活動方針の多様さ等勉強することができた。連携の可能性も感じられ、大変有意義だった。

多くの大学関係者にこのようなフォーラムに触れて新しい気づきが生まれるよう、私も大学や自分のコンソーシアムに戻って発信する。全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの価値の高さを社会に向けて発信をお願いしたい。



パネル展示

展示テーマ 兵庫から発信する大学間連携や産官学連携

大学コンソーシアムひょうご神戸に加盟する15校23ブースが「大学間連携」「産官学連携」「震災30年」阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ大学の活動について』の3テーマにて発信。コアタイムには多くの来場者が足を止め、パネルを読み込みながら議論や質問を交わす姿が見られました。学生も積極的に説明に立ち、参加者の関心を惹きつける姿勢が印象的でした。 ※地域活性化に資する人材育成を目指す、学生交流委員会事業として実施。

【出展大学・団体】明石工業高等専門学校、大手前大学、関西国際大学、関西学院大学、甲南大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭大学、神戸親和大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学、一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

アンケートから

震災30年を迎えて兵庫県、神戸の大学の災害の学びと啓発活動を続けておられることに感銘を受けた。地震災害は悲劇だが、地域に住まう人々の人的資本の価値を問う試練なのだと感じた。

各大学での取り組みがわかりやすくまとめられていて、地域共創科目やサービスラーニング科目等とても興味深かった。また解説学生の、熱心で丁寧な様子が印象的だった。本学のオープンキャンパス等の発表の場の参考にしたい。

兵庫県からの受託事業

～若者による「震災の教訓をつなぐプロジェクト」～

阪神・淡路大震災から30年。あの日の教訓を次世代へとつなぐため、震災を知らない世代の学生たちが、取材や調査を重ね、防災・減災啓発の動画を企画・制作。地域社会や全国に向けて発信しています。



分科会



第1分科会 公益財団法人大学コンソーシアム京都

産官学オール京都での留学生誘致の推進
～留学生の定着に向けて～

コーディネーターの今西氏より、留学生政策の推移と大学コンソーシアム京都の海外留学派遣プログラムの実績が紹介されました。続いて京都市の上田氏より、京都市の大学、学生数、留学生数等に関する状況と、留学生受け入れに関する施策についてお話がありました。次に龍谷大学の笠森氏より留学生就職支援と留学生の実情について報告があり、その後は、留学生を地域で受け入れるための課題や取り組み策、留学生の就職支援等について質疑応答が行われました。



アンケートから

総じて、「留学生」と一括りにするのではなく、個々人の文化的背景や諸事情に配慮した支援が必要であると再確認できた。これは、外国人留学生に限らず、学生支援の観点からも共通する内容である。

当市においては、技能実習生による労働力の確保しかできていないが、高度人材の確保は今後の課題となるので大いに役に立った。

1 開会挨拶
シンポジウム①2 シンポジウム②
情報交換会3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

第2分科会 一般社団法人高等教育コンソーシアム宮崎

共創で描くリカレント教育の未来

～共に学び・共に地域を創る場をどのようにして構築するか～

コーディネーターの中山氏より、宮崎県内の高等教育機関すべてが参加するCOC+R事業の概要とリカレント教育の現状が紹介されました。続いて宇都宮大学の佐々木先生より、リカレント教育の歴史的背景と再定義、またリカレントとリススキリングの相互補完性等について話題提供がありました。次に全国初の大学等連携推進法人が認定された山梨県立大学の杉山学長補佐より、「地域連携プラットフォーム」が提供する教育プログラムに地域各機関が関与する等の特徴について説明がありました。(株)リンクアンドモチベーションの榎原氏からは、リカレント教育が企業にもたらすメリットと実施の際に留意すべきポイントについてお話がありました。その後、リカレント教育のアウトカム、オンライン教育の活用等のトピックで質疑応答がなされました。



アンケートから

リカレント教育の鍵はアンラーニングであり、学生と社会人が共に学び合う場が重要になる。教育を教えることと捉える見方からの脱却が不可欠だと感じた。教育に対しての考え方が変わった。

榎原さんの「光合成」というワードが大変しっくりきました。また、どこを動かすとうなるのか。誰がどう思っているのかなど、たいへん参考になった。

第3分科会

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

【TKK3大学連携事業 15周年企画】

阪神・淡路大震災から30年

「若者と考える 被災地支援と語り継ぎのチカラ」

TKK(東北福祉大学、工学院大学、神戸学院大学)3大学連携プロジェクトとして、防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の取り組みが紹介されたのち、TKK3大学に加えて金沢大学、熊本学園大学の5名の学生より、防災・減災・ボランティアに関するそれぞれの活動について発表がありました。その後の意見交換では、学生が防災等の活動へ参加することへの意義や期待、大学が学生の活動をどのように支援できるか、またこれらの活動を学生教育にどのように繋げていくかについて議論されました。



アンケートから

学生の活動報告内容が、今後の業務・学生支援のために有益であったと思う。

他大学と連携して被災地を支援する仕組みがあること、実際に活動した学生の話聞いたことが、とてもよかった。この活動に参加できるよう加盟校に働きかける動きを取りたい。

5 学生の活躍

学生ステージ



流通科学大学の外国人留学生8名が、ミャンマー舞踊「ダジャンの踊り」を披露。ミャンマーのお正月（ダジャン祭）を祝い、清め・再生・豊穡・喜びを象徴する、華やかで躍動感ある舞が会場を魅了しました！

芦屋大学の外国人留学生2名によるステージでは、まず、中国の伝統楽器「二胡」で「戦場のメリークリスマス」と「茉莉花」が奏でられました。続いて、イスラム教の聖典コーランの詠唱が加わり、重厚で清澄な響きが広がるひとときとなり、参加者は異文化の奥行きを実感しました。

※グローバルな教育支援を目指す、国際交流委員会事業として実施。



学生司会

加盟校の放送部学生6名が会の進行を担いました。シンポジウムでは、緊張しつつも堂々と司会を務め、会場は温かく華やかで雰囲気にも包まれました。さらに情報交換会では、進行だけでなくレクリエーションとして「関西弁講座」を企画し、交流の場を盛り上げました。



午前中には、2プログラムも実施！

大学事務職員のためのSDワークショップ

甲南女子大学との共催にて「大学事務職員のためのSDワークショップ」が開催され、加盟校事務職員や学生ら約40名が参加。このワークショップは甲南女子大学が進める「全員発揮型のリーダーシップ」教育と連携して実施。参加者は自らが直面する業務課題を題材に、学生アクションラーニングコーチの進行のもと、質問中心の対話を通じて課題の本質を探り、解決のための行動計画を立案しました。グループごとのセッション後には全体共有・振り返りが行われ、さらに昼食をとりながらネットワーキングの機会も設けられました。

参加者からは「『質問会議』という新たな課題解決手法を学べた」「目の前の課題の根本的な原因に気づけた」「職員同士で業務の課題について共有し、アドバイスし合える貴重な時間となった」といった声が寄せられ、日々の業務に活かせる気づきと人的ネットワークを得る有意義な機会となりました。



産・官・学でつなぐ「ライフロングキャリア」共創セッション

産官学から約50名が参加し、兵庫県における若者の県外流出と地元定着の課題を背景に、キャリア支援の可能性を探るセッションを開催しました。第1部では、発達障害やグレーゾーンの若者に焦点を当て、多様性採用と支援の在り方を共有し、ニューロダイバーシティの視点から誰もが力を発揮できる社会への理解を促進しました。第2部では、キャリアセンターによるリカレント教育の事例を紹介し、卒業後支援と地元定着、地域ブランディングへの展開を検討しました。活発な意見交換を通じて産官学の連携機運が高まり、支援モデル構築や雇用環境改善に向けた実践的ヒントが得られました。

参加者からは「発達障害やグレーゾーンへの理解が深まった」「学生のリカレントを考える機会となった」「異なる立場の意見交換が有意義だった」との声が寄せられました。



1 開会挨拶
シンポジウム①

2 シンポジウム②
情報交換会

3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

一般社団法人

大学コンソーシアムひょうご神戸

〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2-8 兵庫国際交流会館1F
■阪神「岩屋」駅:徒歩3分 ■JR「灘」駅:徒歩6分 ■阪急「王子公園」駅:徒歩10分
<受付時間>月～金曜 9:00 - 17:00
☎078-271-0233 ☎078-271-0244
✉info@consortium-hyogo.jp



HP

「産・学・官でつなぐ ライフロングキャリア共創セッション」実施報告書

- 主 催：兵庫県・大学コンソーシアムひょうご神戸
- 日 時：2025年8月30日（土） 10:00～12:10
- 場 所：神戸学院大学ポートアイランド第1キャンパス D号館 会議室
- 目 的・概 要：



本セッションは、若者のキャリア支援に関する課題を産学官で共有し、連携による解決の可能性を探ることを目的に開催された。兵庫県では、20～24歳の転出超過数が全国ワーストとなっており、若者の地域定着が喫緊の課題となっている。

一方、当コンソーシアムのキャリア委員からは、現場で感じる課題として、発達障害やグレーゾーンの若者の社会移行の難しさが挙げられている。売り手市場による安易な就職と早期離職など、若者全般の職場定着の重要性も高まっており、これらの課題解消が県内定着の促進につながると考える。

第1部「就職・採用編」では、発達に特性を持つ若者への支援の在り方を、第2部「職場定着編」では、卒業後も大学がリカレント教育などを通じて継続的に関わる支援モデルを提示。各機関の事例紹介や意見交換では、参加者が現場で活用できるヒントを持ち帰ることを目指した。

多様な立場の関係者が一堂に会する本セッションを通じて、若者のキャリア形成と地域定着を結びつけて考えることで、産官学の新たな連携の可能性を見出す機会とする。

- 参加者数：合計52名（大学、企業、県）

内訳

- 1) 大学教職員：16校22名

No.	大学名	所属部署・学部	役職	参加者氏名
1	芦屋大学	教育相談所		槇場 政晴
2	芦屋大学	学生部 就職課		吉田 育子
3	大手前大学・大手前短期大学	キャリアサポート室	室長	久保 和也
4	関西大学	事業推進局	局長	服部 真人
5	関西福祉大学	キャリア開発課	課長代理	立川 晴道
6	関西学院大学	商学部 教授	キャリアセンター副長	松本 雄一
7	神戸大学	キャリアセンター	政策研究職員	田中 美恵
8	神戸学院大学	経済学部 教授	キャリアセンター所長	井上 善博
9	神戸学院大学	キャリアセンター	事務部長	中嶋 寿史
10	神戸学院大学	キャリアセンター キャリア支援グループ	グループ長	住本 美保子
11	神戸学院大学	キャリアセンター キャリア支援グループ	リーダー	住谷 健
12	神戸国際大学	法人本部事務局	参事	塚本 眞光
13	神戸国際大学	キャリアセンター	キャリアアドバイザー 外国人留学生担当	鈴木 雄祐
14	神戸国際大学	キャリアセンター		田辺 善博
15	神戸親和大学	キャリアセンター事務室	主任	實安 恭子
16	甲南大学	キャリアセンター	次長	天羽 麻由子
17	甲南女子大学	キャリアセンター・資格サポートセンター・社会連携課・国際交流課	事務部長・資格サポートセンター事務長・社会連携課 課長・国際交流課 課長	松井 小枝子
18	宝塚医療大学	観光学部 観光学科	准教授	山口 一弥
19	姫路大学	学生課		河野 琴音
20	兵庫県立大学	国際商経学部准教授	キャリアセンター長	濱田 洋
21	兵庫県立大学	国際商経学部	教授	車井 浩子
22	神戸女子大学	心理学部心理学科	教授	小沢 康英

2) 企業：16 社 26 名

No.	会社名	所属部署	役職	参加者氏名
1	株式会社カコテクノス	業務部	部長	竹内 義晶
2	キンキテレコム株式会社	コーポレート本部人事総務課	課長代理	芝元 紀子
3	株式会社サカイ引越センター	西日本本社	主任	青野 恵子
4	株式会社サカイ引越センター	兵庫推進課		高田 錦
5	株式会社システムギアビジョン	事業本部	取締役事業本部長	山平 健人
6	株式会社ダイシンコラボレーション		代表取締役	吉田 匡廣
7	白鶴酒造株式会社	総務人事部	課長	林 寿和
8	一般社団法人兵庫県経営者協会	インターンシップ推進事業		浅野 由紀
9	兵庫ダイハツ販売株式会社	人事部	課長	長濱 優
10	兵庫南農業協同組合	人事部人事課	課長	有馬 義人
11	兵庫南農業協同組合	人事部人事課	係長	中村 憲太
12	株式会社V3		代表取締役	中川 浩一
13	株式会社三鷹倉庫	管理部	部長代行	松浦 隆男
14	株式会社三鷹倉庫	管理部		川中 菜緒
15	株式会社三鷹倉庫	管理部		中西 優
16	株式会社山上	管理部	統括部長	北野 篤史
17	株式会社山上	監理部		東 優月
18	ヤマト住建株式会社	総務部人事部	部長代理	黒木 芳基
19	ヤマト住建株式会社	総務部人事部	課長代理	清水 隆一
20	りそな銀行	ひょうご地域, 九州営業本部, 広島	執行役員	関 淳吾
21	りそな銀行	神戸支店	支店長	北林 功
22	りそな銀行	西宮支店	支店長	安達 立洋
23	株式会社ワークアカデミー	営業統括部	グループリーダー	井本 舞
24	株式会社ワークアカデミー	営業統括部	グループリーダー	宮藤 英樹
25	株式会社ワークアカデミー		専務取締役	有井 公祐
26	株式会社kaien	法人向けサービス	シニアコンサルタント	足立 寛子

3) 行政：2 団体 4 名

No.	大学名	所属部署・学部	役職	参加者氏名
1	豊岡市役所		市長	門間 雄司
3	兵庫県	総務部教育課	大学振興官	井上 恵介
2	兵庫県	総務部教育課	班長	笹倉 真基
4	兵庫県	総務部教育課	副主任	村田 由佳里

※事務局：大学コンソーシアムひょうご神戸（4）

6. プログラム・内容：

第1部 10:00～11:00 就活・採用編

多様な人材の力を活かす～大学・企業ができる支援と連携～

講師：株式会社 kaien 法人向けサービス シニアコンサルタント 足立寛子

- ① 発達障害とニューロダイバーシティについて
- ② 多様な人材を受け入れることの、組織へのポジティブな影響
- ③ 学生や若手社員のサポート・マネジメント方法
- ④ “明日から私ができるサポートは？” ディスカッション

（内容詳細）

本セッションは、発達障害やグレーゾーンの若者に対する大学・企業の多様性採用の現状と支援の在り方を共有し、ニューロダイバーシティ（神経多様性）の視点から、誰もが力を発揮できる社会の実現に向けた産官学連携の機運を高めることを目的に開催された。

ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意欠如・多動症）、SLD（学習障害）およびグレーゾーンの学生には、特性に応じた支援が不可欠であり、大学・企業それぞれに以下のような工夫が求められると説明された。

- ・大学：就職活動支援の「見える化」、個別相談の充実



・企業：業務指示の構造化・視覚化、柔軟な評価基準、面接時の内容、配慮

企業の職場定着支援の事例としては、特性に応じた業務マッチングや1on1面談の活用が紹介され、本人の強みを活かすことが成果向上とマネジメント力強化につながるとされた。

後半では、大学・企業・行政の参加者による意見交換が行われ、特化型企业説明会や職場実習の導入、支援学生の情報共有が多様性採用の促進につながるとの意見が出された。

まとめとして、多様な人材の採用においては、大学と企業の連携に加え、行政が橋渡し役を担うことで地域全体の人材活用が高まり、持続可能な雇用環境の形成につながる。多様な人材の受け入れは福祉的配慮にとどまらず、組織の生産性やイノベーション創出にも寄与する。今後も大学・企業・地域が連携し、誰もが安心して学び・働ける社会の実現を目指すことの重要性が強調された。

第2部 11:15～12:10 職場定着編

大学×企業の共創によるリカレント教育の新たな挑戦！

卒業後も続くキャリアセンターの伴走支援

神戸女子大学の事例から知る

～「学び・相談・定着・転職」支援が一体となった教育プログラムとは～

講師：ワークアカデミー株式会社 専務取締役 有井公祐

講師：神戸女子大学 心理学部心理学科 小沢康英

① 卒業後のキャリア支援導入に纏わる神戸女子大学の紹介、教育理念と85年の歴史

② リカレント教育の導入から強化までの大学、社会背景

③ 神戸女子大学でのリカレント事例紹介：

教育の新たな役割と「卒業して終わり」から「卒業後も伴走」へ

④ 本音で話しませんか？リカレント教育を地域の若者の定着につなげるために…

大学・行政・企業それぞれから見るリカレント教育 教育を推進する意義

(内容詳細)

神戸女子大学の小沢先生からは、同大学およびキャリアセンターと連携したリカレント教育の取り組みが紹介された。神戸女子大学は戦前から女子教育に力を注ぎ、地元企業との連携や卒業生同士の交流の場づくりにも積極的である。急速に変化する社会において、学び直しの重要性を認識し、組織的にリカレント教育に取り組んでいる。

続いて、株式会社ワークアカデミーの有井氏より、大学と社会の背景を踏まえたリカレント教育の導入・強化に関する説明があった。その後、兵庫県における若者の定着に向けた課題と解決策について議論が行われた。現状では、学生が地域よりも職種や給与を重視する傾向があり、地元中小企業の認知度が低いいため、企業との初期接点の重要性が指摘された。また、親世代の価値観がキャリア選択に影響を与えていることや、若手社員が管理職を敬遠して離職するケースも課題として挙げられた。

解決策としては、インターンシップや職場体験の充実による入社後ギャップの軽減、若手社員が異業種交流できる場の提供によるキャリア視野の拡大などが提案された。リカレント教育を通じた県内定着というテーマに対し、議論はその前段階で止まってしまったが、逆にこのテーマの難しさや認知度の低さを再認識する機会となった。

7. 参加者の感想

事後アンケートでは、49名から回答があり（回収率94.2%）、回答者の約9割が、セッション全体や第1部の内容を大変理解できた・理解できたと回答。しかしながら、2部の回答は65.3%と「卒業後のリカレント支援がどのように県内定着に繋がるか」の理解促進が不十分な結果となったため、今後の課題としたい。

自由記述では「グレーゾーン」の学生・社員への対応に多くの組織が苦慮していることや、多様性採用がもつ企業活性化の可能性の認知度の低さが明らかになった。具体的な介入方法や、診断の有無に関わらない職場体験の機会の重要性が指摘された。また、リカレント教育は個人だけの問題ではなく、組織・地域全体で取り組むべき課題であると



の認識が深まり、対象を若者に限らず、全世代に広げる取り組みが求められるとの意見も出た。

若手人材の定着と人材不足の課題解決には、産官学の連携をさらに深める必要がある。また、企業側が学び直しをした人材の離職を懸念している点も、今後の課題として共有された。

8. 所感

本セッションを通じて、大学と企業が互いの立場や役割を深く理解し合い、若者のキャリア形成および県内定着という共通課題に対して、継続的かつ戦略的に連携していくことの重要性を改めて認識する機会となったと感じている。特に、「グレーゾーン」とされる人材への具体的な支援策の必要性や、大学と企業が一体となってリカレント教育を効果的に活用する仕組みづくりに関しては、今後さらに踏み込んだ議論と具体的な実践が求められることが明らかになった。今後は、本セッションで得られた知見と議論を土台に、産官学が垣根を越えて連携し、若者の可能性を最大限に引き出すための具体的な行動変容へとつなげていくことが不可欠であると感じた。そして、コンソーシアムの持つネットワークや柔軟性、現場感を活かすことで、地域社会に根差した持続可能な取組をさらに広げていく余地は大きく、今後の展開を考えていくテーマであると改めて痛感した。

ひょうご留学生インターンシップ 2025 最終報告

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

全参加学生数、学年、大学、出身国・地域、受入先、受入人数

参加学生数	83名
参加大学数	13校
受入企業・団体数	28社

所属大学	人数
芦屋大学	2名
大手前大学	1名
関西学院大学	2名
甲南女子大学	1名
甲南大学	2名
神戸大学	6名
神戸国際大学	9名
神戸女学院大学	1名
神戸親和大学	4名
園田学園大学	2名
兵庫県立大学	10名
兵庫大学	1名
流通科学大学	42名
合計	83名

参加学年	人数
2回生	14名
3回生	53名
4回生	3名
修士1年生	8名
修士2年生	3名
博士課程1年生	1名
その他	1名
合計	83名

出身国・地域	人数
ベトナム	29名
中国	18名
インドネシア	8名
ミャンマー	6名
バングラデシュ	4名
タイ	3名
韓国	3名
香港	3名
インド	2名
アメリカ	1名
ギニア	1名
スリランカ	1名
ベナン	1名
マレーシア	1名
ネパール	1名
非公開	1名
合計	83名

	受入先(企業・団体名)	受入人数
1	Earthink株式会社(新規)	7名
2	株式会社eftax(新規・英語でインターンシップ実施)	4名
3	株式会社シマブンコーポレーション	2名
4	株式会社創発システム研究所(新規・英語でインターンシップ実施)	2名
5	株式会社中央電機計器製作所	1名
6	白鶴酒造株式会社	2名
7	六甲バター株式会社(新規)	4名
8	株式会社パナグループ	2名
9	一般社団法人福祉心話会	4名
10	豊開発株式会社	4名
11	TOA株式会社(新規・英語でインターンシップ実施)	4名
12	日本テクノロジーソリューション株式会社	1名
13	株式会社ワークアカデミー(新規)	5名
14	株式会社ゼロプラス(新規)	3名
15	株式会社大林(新規)	1名
16	エバオン株式会社	4名
17	株式会社学生情報センター	1名
18	株式会社JTB	1名
19	医療法人社団星晶会	4名
20	センコー株式会社	5名
21	阪神機器株式会社	4名
22	公益財団法人兵庫県国際交流協会	1名
23	株式会社フジ・データ・システム	3名
24	株式会社ブレックス	5名
25	株式会社ベオスアイティーホールディングス	1名
26	株式会社ヤマシタワークス	3名
27	大和建工材株式会社(新規)	3名
28	山村ロジスティクス株式会社(新規)	2名
	合計	28社
		83名

【参考：これまでの参加人数推移等】

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
実施時期	2014/6～10	2015/6～10	2016/6～10	2017/6～10	2018/6～10	2019/6～9	2020/6～9	2021/6～9*	2022/6～9*	2023/6～9	2024/6～9
修了学生数	47名	42名	56名	36名	40名	34名	19名	30名	43名	38名	61名
参加大学数	14校	11校	12校	9校	10校	10校	7校	9校	8校	12校	10校
受入企業・団体数	24社	25社	26社	20社	24社	22社	10社	13社	22社	21社	26社
インターンシップ件数	25件	26件	27件	20件	24件	22件	11件	13件	22件	21件	26件
テーマ型	2件/4名	3件/5名	2件/5名	－	－	－	－	－	－	－	－
テーマ・就労体験型	－	4件/9名	3件/7名	5件/9名	6件/8名	3件/5名	3件/5名	9件/21名	6件/13名	5件/7名*	11件/26名
就労体験型	23件/43名	18件/28名	22件/44名	15件/27名	18件/32名	19件/29名	8件/14名	5件/9名	17件/30名	17件/41名*	15件/38名

*10月以降実習を含む *10月以降実習を含む *3/52か所実習:10名 *3/52か所実習:3名

※当インターンシップ事業：2009年度より1ㄱ年継続

「尼崎市」大学生等向けオープンカンパニー(インターンシップ等推進事業) 「1day 職場体験@あまがさき 2025」実施報告書

1. 事業概要

本事業は、尼崎市内の企業において、大学生等が半日～1日の職場体験を通じて企業と学生の相互理解を深め、地元就職への関心を高めることや若者の社会人基礎力の育成を目的として実施。1回のエントリーで学生が最大5社まで選択して参加できる仕組みやリクルートスーツ着用を義務付けないなど学生が気軽に参加できる工夫や、会社説明だけでなく実務体験や若手社員との座談会、ランチタイム交流会など、学生自身が企業で働くことをイメージしやすい内容にして、学生と企業の相互理解の促進をねらいとした。

1)主 催：尼崎市経済環境局経済部しごと支援課

大学コンソーシアムひょうご神戸

2).実施期間：令和7年8月20日～9月11日

3).参加企業：5社16名

内訳：株式会社日興商会、株式会社タクマ、株式会社三鷹倉庫、

日本山村硝子株式会社、株式会社近鉄・都ホテルズ 都ホテル尼崎

4).参加行政：尼崎市5名

5).参加学生：延べ22名(9大学等より参加)

内訳：大手前大学3人、関西国際大学2人、関西学院大学大学院1人、

甲南大学4人、神戸学院大学3人、神戸市外国語大学3人、

神戸親和大学2人、武庫川女子大学3人、コミュニケーション学院1人

6).対 象：主に2027年3月卒業予定の大学・短大・高専学生(留学生含む)

7).実施形式：企業訪問型の1day 職場体験、会社説明、業務体験、座談会、ランチタイム交流会、グループワーク等



2. 参加企業別実施内容

株式会社日興商会(オフィス関連総合商社)

○事業内容：Face to Faceで顧客の課題に寄り添い、快適なオフィス環境を提案する商社

○実習テーマ：営業になりきって理想のオフィスづくりを体験しよう！

○実習内容：会社概要、業界説明、営業ロールプレイング体験、グループワーク、全体発表。

「行きたくなるオフィス」をテーマにしたワーク。参加学生が営業員の立場になり、お客様のオフィスの困りごとを解決するワークを実施。

○学生の声：営業職の本質を知り、顧客に寄り添う姿勢が大切だと学べた

face to faceの仕事に魅力を感じた

○企業の声：学生との接点を持てて良かった

外国人留学生の能力・意欲の高さを実感した



株式会社タクマ（プラント・エンジニアリング）

- 事業内容：ごみ処理・発電・水処理施設の設計・建設を担うインフラ企業
- 実習テーマ：人事部に配属されたとして、会社説明会で使用するスライドを作成してみよう
- 実習内容：会社概要・業界説明・職場見学等、先輩社員との交流会
グループに分かれて、先輩社員の自己紹介、先輩社員へのインタビュー
「会社の魅力を学生に伝える」プレゼン資料の作成。
課題のプレゼンテーションと社員からのフィードバック
- 学生の声：環境や SDGs に関心があり、実際の企業の業務内容や若手社員の方の話が参考になった
- 企業の声：個性ある魅力的な学生が参加してくれた
積極的な学生姿勢が印象的だった



株式会社三鷹倉庫（物流業）

- 業務内容：倉庫業務から物流コンサルまでを担うトータルサポート企業
- 実習テーマ：ポチッとした商品が手元に届くまでを大解剖
- 実習内容：会社概要・業界説明・職場見学等、ネット物流体験
ピッキングや梱包作業を業務体験し、生産性ツールで作業時間の計測方法を学ぶ。
ここだけの話「社会で役立つ物流の仕組みを大公開」
ランチタイム座談会（企業が軽食をご準備）「元人事責任者が就職や面接の悩みに答えます」
- 学生の声：物流の仕組みを実体験できた。倉庫作業と事務作業の両方を知れて良かった。
社員の方の温かさが印象的だった。
- 企業の声：学生や留学生とふれ合う機会が持ててよかった。
ネットを使った、学生等との交流ツールを使う必要性を感じた。



日本山村硝子株式会社（製造業）

- 事業内容：ガラスびん・プラスチックキャップの製造・販売、最先端素材の開発
- 実習テーマ：“フタ”を開ければわかる？キャップから広がるモノづくりの世界
- 実習内容：会社概要・業界説明・職場見学等・先輩社員とホンネ座談会
体感ワーク「プラスチックキャップができるまで」
「持参した好きな飲み物のキャップの開けやすさから知る企業の技」
課題解決グループワーク
「キャップトラブルを解決せよ！」～実際にあったトラブルをどう解決するか？～
社員のアドバイスを受けながら、実際の仕事の流れや役割をダイレクトに学んだ
- 学生の声：身近な製品の製造工程を知り、やりがいを感じた。
社員の方が親切で、会社の雰囲気がとても良かった
- 企業の声：多くの学生が集まったことが良かった
欠席者対応が早く判明させるなど、改善できたらよい。



株式会社近鉄・都ホテルズ 都ホテル尼崎（サービス業）

○業務内容：都市型・リゾート型ホテルを全国展開するホスピタリティ企業

○実習テーマ：サービスの提供者目線で、世の中を見てみよう

○実習内容：会社概要・業界説明等、館内見学、サービス体験

「激変するホテル業界で、選ばれるホテルになるためには」
知ってトクするマナー研修。ホテルのフロント業務体験。
ティータイム座談会「人事担当者が就活の悩みに答えます」

○学生の声：接客業の心構えが学べた。

ケーキが美味しく、座談会で色んな質問ができて就活の参考になった
地元・尼崎ならではの温かく柔らかなホスピタリティに触れたことで、「人に寄り添う仕事」の
魅力を肌で感じる事ができた。

○企業の声：学生がホテルや観光業に興味を持ってくれたことが嬉しい



3. アンケート結果と考察

①尼崎で働く魅力とは？

参加学生からは、尼崎市の魅力についても多くの声が寄せられた

- ・ 「大阪・神戸へのアクセスが良く、通勤に便利」
- ・ 「地元で働ける安心感がある」
- ・ 「商店街や施設が充実していて暮らしやすい」
- ・ 「実家から通える距離で、生活面でも不安がない」

尼崎市が誇る“住みやすさ”と“働きやすさ”が、若者の視点からも再確認できた。

②学生アンケートから見えた成果と改善点

- ・ 参 加 満 足 度：5点満点中「5点」評価が最多（19人/22人）
- ・ 内 容 の 理 解 度：「業界・職種」「仕事の流れ」「企業の特徴」などが高評価
- ・ 参加のきっかけ：「大学からのメール」「キャリアセンターの紹介」が中心
- ・ 参加しやすさ：「1dayで気軽に参加できる」「他大学の学生と交流できた」などの声
- ・ 改 善 点：「もっと多くの企業に参加してほしい」「オンライン説明があると安心」

③参加協力企業から見えた成果と改善点

- ・ 参 加 満 足 度：「とても良かった・よかった」100%
- ・ 学生との交流で知ったこと：学生の就職に対する考え方、学生の仕事観、会社の課題
- ・ 良 かった 点：個性ある魅力的な学生に出会い、繋がることのできた
自社や業界のこと、仕事の魅力を学生に知ってもらえた
外国人留学生の能力・モチベーションの高さを知れた
- ・ 改 善 点：応募多数の場合、抽選で決められるようになるといい
開催前から学生やり取りができればいい
学生がもう少し集まれば良い（但しエージェントや自社独自も難しいが…）

個性豊かな学生や留学生の高い意欲に触れることを通じて、企業側も自社の魅力や課題を見つめ直す機会となったと思われる。今後は、より双方向性を高めた設計や事前交流の仕組みを取り入れ、企業と学生が会おうだけでなく互いに学び合える場として、さらに価値ある取り組みへと進化できればよいと感じた。

4. 今後の展望

本事業に参加した学生は、尼崎市内の企業を実際に訪問し、業務を深く知り、職場の雰囲気や社員の姿に触れることで、企業理解を深めるとともに、自身のキャリア形成について考えるきっかけを得ることができた。また、企業側にとっても、若者との接点を持ち、価値観を知ることで、採用活動や地域貢献の新たな可能性を見出す機会となり、双方にとって価値ある取り組みであったと考えられる。

今年度の参加学生募集は、近年の超売り手市場の影響による就職活動の早期化・多様化により、目標値は超えたものの苦戦を強いられた。特に、大学3年次の夏季休暇期間は、インターンシップや企業研究が集中する時期であり、学生の選択肢が増える一方で、地域密着、地元就職が特徴の当プログラムへの参加の動機づけが難しくなっている現状がより明らかになった。

その様な状況下でも、参加した学生・企業双方からは「参加してよかった」「地元の魅力を再発見できた」「社員の温かさに触れた」「働くイメージが湧いた」といった前向きな声が多く寄せられた。これは、尼崎市という地域と、そこに根ざす企業が、学生にとって十分に訴求力を持っていることの証であり、今後の可能性を示す重要な成果であるとも言える。

また、本事業で学生は、グループワークや社員との対話を通じて、コミュニケーション力、課題発見力、チームで働く力など、社会人として必要な基本的な能力を実践的に体験することもできた。これは本事業が、単なる企業理解にとどまらず、学生の成長を促す教育的な意義も持つ取り組みであり、企業訪問を通じて「社会人基礎力」の養成にも寄与できたと言える。

一方で、こうした魅力をどのように伝え、どのように学生と企業をつなぐかという点は、今後ますます困難な課題となっていくことが予想される。学生の情報収集手段や価値観が多様化する中で、従来型の広報や募集方法では明らかに学生に届きにくくなっている。大学内イベントとの連携、短時間・低負担で参加できる交流企画、もしくは、選考直結型などがその解決策の一つになるのではと考える。

総じて、本事業は、地域と若者をつなぐ「きっかけづくり」として価値を持つものであったといえるが、今後もその意義を継続・発展させるためには、学生の変化に対応した新たな接点の創出が不可欠である。大学コンソーシアムひょうご神戸としては、キャリアセンター職員をはじめ、大学教職員や行政、企業と連携して、これらの課題に挑み続けていきたい。